

## ドレッサージュホースに育てよう!

日本で乗用馬・競技馬として使われている馬の中には競走馬から転用しているケースが数多くあります。しかし、もともと走るためにつくられたサラブレッドを競技馬として活用するためには、そのためのトレーニングが必要であり、ライダーやトレーナーを多くの課題が待ち構えています。「Lクラスでは通用しても、なかなかMクラス、Sクラスへとステップアップできない……」そんな悩みを抱える人は少なくないでしょう。

今回、JRAの協力を得て、そのような悩みを抱えるライダー・トレーナーのヒントになればと考え、《ドレッサージュホースに育てよう!》をスタートします。主役は《オースミイレブン》。父：クロフネ、母：ロジータという血統に生まれた彼は15戦5勝の競走成績を挙げて、5歳の春にレースを引退、昨年末までJRA札幌競馬場で誘導馬の仕事をしなが、競技馬としての基礎トレーニングを受けてLクラスの競技に参加していました。そこでポテンシャルを見込まれてJRA馬事公苑に転厩、さらに上のクラスを目指して本格的にドレッサージュホースとしてのトレーニングを始めたばかりです。

担当しているのは北原広之さん。選手として、またトレーナーとしてこれまでに多くのサラブレッドを競技馬へ調教した経験を持っています。近年では、北原さんが騎乗して《全日本馬場馬術大会 Part II》Sクラスで優勝したタイキラファエロ号（サラブレッド）を、未調教から1年半でセントジョージ60%を超えるスコアを出せる馬場馬に調教しました。北原さんがこれまでの経験をフルに活かして、オースミイレブンをドレッサージュホースとして育てていく過程を、不定期に随時ご紹介していきます。

### 《オースミイレブン》プロフィール

2007年3月23日生まれ（8歳）セン馬  
15戦5勝（主な勝ち鞍：甲南ステークス）  
現役時代の所属厩舎：昆 貢厩舎（栗東）

父：クロフネ	父の父：フレンチデビュー 父の母：ブルーアヴェニュー
母：ロジータ	母の父：ミルジョージ 母の母：メロウマダング



父のクロフネはジャパンカップダートを圧勝した馬。母のロジータは南関東で大活躍。牝馬ながらに羽田盃、東京ダービー、東京王冠賞の3冠を達成、現在もその名を冠した《ロジータ記念》というレースが行われている。

ここで読者の皆さんにクイズです。



上の2枚は馬事公苑でトレーニングを始めた日に撮影した写真です。ハイレベルなクラスの課目へステップアップするために、北原さんはどちらの体勢でアプローチしていこうと考えているのでしょうか？ 答えとその理由は連載の中で徐々に明らかになるはずですよ。

### 連載スタートにあたって 北原広之

この度、このような企画のお話を頂いた際、既に札幌競馬場からオースミイレブン号を馬事公苑へ移管する計画がありました。果たして、そのご期待に沿えるか疑問が残りましたが、たとえ今後、私が調教などで失敗したとしても、それを読者の皆さんと共有し考えることで、今皆さんが携わっている馬や、未来に出会うであろう馬たちとの調教やトレーニングの一助になるのでは、と考えました。

私にとって馬の調教は孤独です。これまで調教した馬は一人で調教してきました。果たしてこのままで正解なのだろうか？この道を進んで行くことによって落とし穴はないだろうか？馬はどのように感じているのだろうか？など、自問自答の日々の中で調教をしてきました。それらの経験の中から、自分なりの正解を発見し、馬の能力を最大限に発揮するための体勢、そこまでのアプローチ、そうするために自分はどのように乗るべきかなど自分なりのスタイルを築いてきました。しかし私は、それが必ずしも正しいとも思っていません。もっと多くを学び、確固たる調教法を追究していかなければなりません。これから皆さんと一緒に考え、人馬共に成長できればと思っています。